

## ちいさな証

## 偉大な神様の大陸の一部

初めてヨーロッパ・キリスト者の集いに参加して

トムセン・ハンス

スイス日本語福音キリスト教会会員



私にとっては初めての集いで、とても印象深い四日間でした。忘れ難い思い出の一つは、アントウェルペンAntwerpenへの遠足です。遠足と言うよりは冒険と言った方が良いでしょう。地図も知識も全く無く、方向も分からない5人（佐々木先生、野口先生、佐々木千恵子さん、トムセン夫婦）でアントウェルペンへ大聖堂を探しに参りました。頼みの綱は狂ったカーナビで、結局、目的地より遠く離れたところに到着してしまいました。

その後は一緒に来て下さった牧師先生二人の熱いお祈りのおかげもあり、親切な運転手さんの好意によって無料のバスに乗せていただいたりしながら、沢山さんの親切なベルギーの方々の案内により、やっとのことで大聖堂を見ることができました。そして、ルーベンス（17C）の祭壇画「聖母被昇天」遠足の目的、「フランダースの犬」で有名になったルーベンスの油絵の前に立ち、神様の御導きに感謝の気持ちでいっぱいになりました。



集いにおいての毎日の素晴らしい説教も心の中に響き続いています。川井先生、斎藤先生、盛永先生、等々、先生方のお話が宝石のように輝いていて、ルーマニアや青春時代の信仰や「伝道」についてもっと聞きたいというところで、集いはあっという間に終わってしまい、特に盛永先生の力強い伝道のメッセージは忘れ難いものとなりました。

仕事疲れのままベルギーへ向かいましたが、集いを通して、イエス様の素晴らしいメッセージに触れ、心身共にすっかり元気になって帰って来ました。そして、参加者の方々とは食事などの機会を通して沢山の出会いがあり、とても嬉しかったです。



スイスからの参加者と：オリエンテーションで。

その中で、日本での子供の頃の出会いに驚くような共通点を見出し、懐かしい思い出が沢山よみがえってきました。自分だけの歴史だと思っていた事が、実は沢山の兄弟姉妹のものでもあったと気付いて嬉しかったです。やっぱり私たちは一人だけで存在する者ではなく、皆、神様のネットワークの中に生きているのだとつくづく感じました。

私たちは皆、ヨーロッパの数多くの日本語教会に集う中で、普段それほど大きくない集まりの中で神様を賛美しています。毎週こういうメンバーと一緒にいると、周りの「外国」に対して、我々日本語で賛美するメンバーは、孤島にいるような気持ちになる傾向があるかと思います。しかし、キリスト者の集いの体験によって明らかにされたことは、小さな島だと思っていたところが、立派な列島の一部であることだけではなく、実は、偉大な神様の大陸の一部であるということです。

やっぱり私たちは皆「境」を越えた、神様の素晴らしいコミュニティーのメンバーです。キリスト者の集いでの、私自身への一番大事なメッセージはそれでした。神様の世界は永遠に続く想像もできないほど偉大なもので、私たちは皆、その大事な一部になっています。ここは国籍、言葉、教会の大きさなどが関係なく、我々の神様にある兄弟姉妹の集いなのです。その集いに参加する事を許された幸いを心から感謝します。愛する妻と念願の集いに初参加！

